

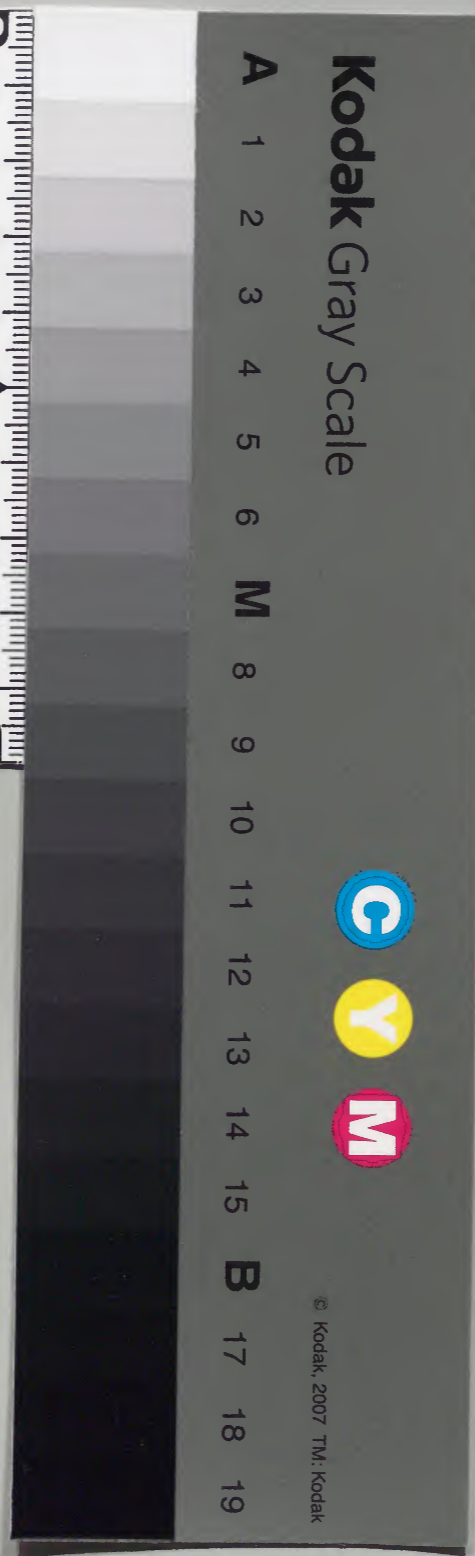
野槌

上之目

和書門			
一	八	二	
冊	架	函	號
三	四		

庫文閣内		和
一〇三	一八	書
函	〇二	
一七	三	
架	冊	類
		(四)

内閣文庫		
番號	和	18702
冊數	13	(4)
函號	203	147



綴じ部(喉部分)の文字等が開きが不鮮明な場所あり

以招徠

害公心

名利之實不煩於理

不監於道

文選不懷室以買吾子不

在子盜路篇子正為若我正

身後堆金粒北斗不如生前一樽酒

敬法乃右府參軍

唐書秦王引尉遲

一車同辭秦王曰公之心如山岳雖積金

秦王者謂太宗也臨太子者太宗兄建成也

金ハ山

貨財不近

學天地篇藏於山藏珠於淵不利

文選東都賦檢金於山沈珠於淵

同才三藏金於山

辟於谷

白氏文集遺文二十軸軸々金王

龍門原上五理骨不理名

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト
ハ
心
可
之
ハ
心
之
病
者
ハ
心
病
ハ
之
ニ
ニ
テ
ア
チ
ハ
我
博
ラ
一
有
テ
賢
ラ
生
ル
可
テ
ハ
吾
等
也
一
節
ニ
シ
テ
ノ
不
ト
ヤ
上
ハ
ヤ
ウ
ニ
ヨ
リ
テ
多
寫
有
ガ
ト
一
頁
人
之
心
ハ
如
明
鏡
一
物
ニ
シ
テ
ニ
テ
ハ
盤
若
人
是
ヨ
リ
為
名
ニ
字
ヲ
者
ニ
取
化
セ
リ
ト

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト

可恨心之病
者ハ心病ハ
之ニニテアチ
ハ我博ラ一有テ
賢ラ生ル
可テハ
吾等也
一節ニシテ
ノ不トヤ上ハ
ヤウニヨリテ
多寫有ガト
一頁人之心
如明鏡
一物ニシテ
ニテハ
盤若人
是ヨリ為名ニ字ヲ者ニ取化セリト

計しやと事ししむる富もの不仕しこれ
の得られ有天子法候しつゝと張公相も成りし
あり回ゆやこれ鉅橋唐其わ却ら固其いふの
や臣しして取を飲しつゝと留臣しつゝと列強
寧々女財ハ籍没也いふしつゝとや唐氏し
て代貸強しつゝと細細しつゝと壁ハ罪あり
毛齒革のみよ殺りしつゝと誠行するいふ
又名は求るものいふも実ありつゝとふれ
多ハ保しつゝと名ハ實ハ實し世の交わ
りつゝと信をきして人しつゝと信ありし
未だしつゝと名ハ実しつゝと名ハ實し

實を言し不ことありしつゝと名ハ實
つゝと名ハ実しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實し
心はなうしせせしつゝと名ハ實しつゝと名ハ實し
りけせありて後乃益ありしつゝと名ハ實しつゝと名ハ實し
人も又けしつゝと名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實し
つゝと名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實し
人ハ名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實し
侍り又名ありしつゝと名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實し
いせしつゝと名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實し
ふれ事ありしつゝと名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實し
老の見解と以て決しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實し
一修しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實しつゝと名ハ實し

まゝの道とて是は法なる所物論の心と今剛經に應無不
任而生其心との義より神を以て是は水上に胡
芦と云我乃いふし不貪の室と云ふは民の利
より不貪の利と若仁の室と云ふは民の利
より不貪の利と云ふは一人に私をのこして天下に利ししとて
堯舜の心のべが別堯舜の人の人の性なる
ありて人して皆聖賢の心なりと云ふは内なる心あり
実なる心ありと云ふは外なる心ありと云ふは外なる心あり
聖人の心をありてその心ありしは佛の心をあり
てその心ありてその心ありてその心ありてその心あり
ありてその心ありてその心ありてその心ありてその心あり
その心ありてその心ありてその心ありてその心ありてその心あり

ありてその心ありてその心ありてその心ありてその心あり
ありてその心ありてその心ありてその心ありてその心あり
ありてその心ありてその心ありてその心ありてその心あり
ありてその心ありてその心ありてその心ありてその心あり
ありてその心ありてその心ありてその心ありてその心あり
ありてその心ありてその心ありてその心ありてその心あり
ありてその心ありてその心ありてその心ありてその心あり
ありてその心ありてその心ありてその心ありてその心あり
ありてその心ありてその心ありてその心ありてその心あり
ありてその心ありてその心ありてその心ありてその心あり

此要の字行文し莊子論
踏の序は興名就利とて下れ向は非以要を答
い此念佛易行也と云要の字は假名付し此合を語すは此
二種有るは成佛の或人法然上人の念佛の時時々々
二種有るは成佛の或人法然上人の念佛の時時々々
二種有るは成佛の或人法然上人の念佛の時時々々
二種有るは成佛の或人法然上人の念佛の時時々々

難り八天台

真言十

八宗之修

淨土

一の人の信

町立念の起

ついでに

治せんと同

百上人

ハノカ

川

喜念内三起

村ニヤン

ナキ者

今佛一法とて人しきり多しはた
又化世ハ一定と息ハ一定不定と息ハ不定

今佛とてハ化世とてハ一定不定と息ハ不定

源空ハ姓漆同氏義作回福岡人也父時因

母秦氏長承二年四月七日生年十五從延曆寺功位院皇園
剃落受戒二期同通受台教又從黑谷睿空稟密乘及大

乘律凡大藏經律論他宗章疏靡不檢閱既見源信從
生要集乃棄所業淨土專念宗美安四年出黑谷居洛

東吉水盛説專修及圓頓菩薩大戒緇白麻然血氣嘉
應帝召入宮受戒勝相回兼實延同淨土之事空還還
杖集皇之專修之徒叔為叔要建永二年二月竄讀州

建曆元年詔追赴都城二年正月居大谷染疾其徒安孫
陀像於床頭且為臨終助標空曰佛菩薩真身今又來也

二十五日高唱佛号諸徒助和午時著傳持之慈覺僧伽梨
頭北面西誦光也通昭偈而寂年八十臘六十六元亨杖書

如來十六の軌点と用是淨
土念佛の始と外修多子の教をてて人々親樹

天親の二菩薩也法法修と中華しハ東晉の
法法師序山小入之蓮社以結ふ曇雲道綽如後て

い宗沙山心天台大師也淨土の十純端以化とて
ハ唐のをよるる若守盛唱れ故と道俗皆共

化身のりて人々又少康と云れ沙門也

蓮花の泥にうきうきと泥をまきまきみれさせしゆ也
 一のうらまは即窈先出と母蓮を回して下り
 ありしは人し念にたりものゆきありよ示しゆく
 かんたちのらりくをまきまきせしゆのあてんにかん

思ふまじり

此は人の子三愛を
 不念比入道ハ
 心算ニナ
 固情同ハ
 伊ナハ
 平
 辨

すく人のあはれしゆくまきまきせしゆのあてんにかん
 のし念にたりまきまきせしゆのあてんにかん
 し念にたりまきまきせしゆのあてんにかん
 し念にたりまきまきせしゆのあてんにかん
 し念にたりまきまきせしゆのあてんにかん

いひつらりけし

ほ氏東庵にいと念はよ

いひつらりけし

粟のこくひく

異本ニ粟とくこハ水と京テ

町に老尼を常と云と食く又と米とく
 のてあはれ豆腐と煮てくまきまき人しふ豆腐
 とそまき又伊豆の回三崎か或人の世まきまき
 五穀とくまきまきまきまきまきまきまきまきまき

此は死をよ
 此は死をよ
 此は死をよ

五月の賀茂のくく馬場の何れも車に前よ雜人

立つてきておきてまきまきまきまきまきまきまき
 かりたれどまきまきまきまきまきまきまきまき
 やまふしおまきまきまきまきまきまきまきまき
 のりかまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 うあまきまきまきまきまきまきまきまきまき

一演法師云 大中臣氏洛東城人なり
一演法師云 大中臣氏洛東城人なり

五ノ月五日ノ災云々
元亨 教書廿八一 演法師
欲安觀音像 廣末 靈區貞親中 到平安城東山鴨河西
岸于時此地搖震紫雲降出蓮花紛乱奇香薰都演喜
而揖伽藍以敬号感應寺 曰老翁持釣竿出河中語演曰
我此地之至也 自今應為護伽藍神 我有神力能除除魔
障去疫疠又結好夫婦調適產育所謂年頭天王者也
我好眠一歲三百六十日 只五月五日醒 餘日皆卧 迄午之朝初
起而突吐丸其丸或為雲雀或為雨露解不不同其所
解或為茶葉或為毒或為惡瘡或為疾疫等是有情
之業感也 惟我強為也 言尼 孔隱演録 神言奏朝勅黃
一演法師云 大中臣氏洛東城人なり

くさくさ

競馬と云

世に志きまの

原氏帯も小志きまの

斗雲ものし花きよ志きまの

葉才九詠浦島子歌

たらくわれ

左傳 晋悼公園子有女無慧不辨

菽大豆豆麥殊形易別故以為痴者之候不慧蓋世所謂

白痴

人本名よわしゆ

恩 白氏文集 人非本名皆有情不知不遇

伊智お清よむし

思ひこらり

唐相

唐相言教相市トテ有事相ハイリカスル之故タイふ山ラ事相トテ教相ハ流経湯云ト斗

唐相中めと云人孔子也

傍と云る

鼻の中

いふ

面

目

後

あつて

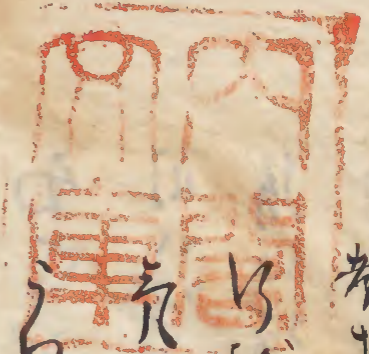
も

唐相

付上源氏久我乃庶流あり

唐在在大初言正三

雅親言正三
待從正五下
通頼
参議中右正三
雅清 行雅 俊都



教お 真言宗子經論聖教を子を教お

りびららるまねと

元元わが ぼ氏若菜下よ元元がうりや

らむらむらむらば肩額あごられと目元上へた

りら

二の舞乃向 俗人元舞元向人多あしておそ

ろしらへ半摩とほしは舞元わら其元

あうと二元舞とら

鬼元ららららら 常燃新秘子載り馮

大異が鬼元元入と鬼元ららららららら

甲人どもたをわらと近りららららららら

い伝奇異元病乃事元云案ららら子

人向せ支離疏者願隠於斎肩高於項會操折天

五管在上兩髀為骨 註云今操髻世五管五臟し喻也

又大宗師篇よつら子興が病とくこれとら子

が詞ハ寓言ありとと又實なり事ととと

唐の悟道因所小人而瘡元病之事 編年通論

佛祖統紀教書等ととと又人之博人而瘡

ををとして酒食減瘡のりららららららら

のりらららららららららららららららら

鼻より鉄針のりららららららららららら

懐中は應声虫のあり事ととと搜神秘覽

出たきくも... 加言...

河氏幻... 我あきく... 交れ日...

ク... 此... 志...

又... 心又... 心又... 心又...

二... 位... 正... 正... 正...

人... 性... 性... 性... 性...

か... 乃... 乃... 乃... 乃...

此... 乃... 乃... 乃... 乃...

向... 院... 院... 院... 院...

公... 世... 世... 世... 世...

実行... 公教... 公清... 公俊... 公世... 公俊子

世... と... 兄... 兄... 兄... 兄...

馬... 子... 似... 人... 人... 人...

弛... 我... 我... 我... 我...

を... と... 疑... 疑... 疑... 疑...

五... 柳... 柳... 柳... 柳...

者... と... 又... 又... 又... 又...

此... 類... 類... 類... 類...

あ... と... 多... 多... 多... 多...

唐... 代... 代... 代... 代...

干... 登... 登... 登... 登...

く... と... 及... 及... 及... 及...

四十六

物名... 六... 六... 六...

六... 有... 有... 有...

業... 業... 業... 業...

者... 者... 者... 者...

二... 依... 依... 依...

福... 福... 福... 福...

世... 世... 世... 世...

治... 治... 治... 治...

遠... 遠... 遠... 遠...

九... 九... 九... 九...

父... 父... 父... 父...

伊... 伊... 伊... 伊...

此... 此... 此... 此...

坂... 坂... 坂... 坂...

洗... 洗... 洗... 洗...

依... 依... 依... 依...

公... 公... 公... 公...

依... 依... 依... 依...

公... 公... 公... 公...

し遊くゆゑにいふが人又補唐先生とて尸
多れ或内人の道くわゆる三群とていふは又
方三群とていふは後子鑑湖の如き也后と山師
はわつとていふは内市處士とていふはもとより
く後口人玄英とていふは海とていふはしは事
も遊りあつたり事とていふは

皇朝類苑^三 江南鑑柔懦寡斷^六 唯好^七 叔氏^八 初後
軍平建^九 刈^十 所荒捷^{十一} 惟裕^{十二} 全活^{十三} 建人^{十四} 德^{十五} 之^{十六} 号^{十七} 考^{十八} 是^{十九} 羅
漢^{二十} 及^{二十一} 竟^{二十二} 湘^{二十三} 潭^{二十四} 鎬^{二十五} 考^{二十六} 統^{二十七} 軍^{二十八} 諸^{二十九} 將^{三十} 總^{三十一} 掠^{三十二} 独^{三十三} 鎬^{三十四} 不^{三十五} 允^{三十六} 軍^{三十七} 入^{三十八} 其
城^{三十九} 巷^{四十} 不改^{四十一} 市^{四十二} 潭^{四十三} 人^{四十四} 益^{四十五} 嘉^{四十六} 之^{四十七} 謂^{四十八} 之^{四十九} 善^{五十} 蔭^{五十一} 及^{五十二} 師^{五十三} 於^{五十四} 潭^{五十五} 政
出^{五十六} 多^{五十七} 門^{五十八} 絶^{五十九} 無^{六十} 威^{六十一} 斬^{六十二} 惟^{六十三} 事^{六十四} 仿^{六十五} 佛^{六十六} 楚^{六十七} 人^{六十八} 失^{六十九} 望^{七十} 謂^{七十一} 之^{七十二} 和^{七十三} 尚^{七十四}
柳^{七十五} 系^{七十六} 由^{七十七} 是^{七十八} 強^{七十九} 盜^{八十} 盜^{八十一} 法^{八十二} 下^{八十三} 也^{八十四} 是^{八十五} 是^{八十六} 是^{八十七} 是^{八十八} 是^{八十九} 是^{九十} 是^{九十一} 是^{九十二} 是^{九十三} 是^{九十四} 是^{九十五} 是^{九十六} 是^{九十七} 是^{九十八} 是^{九十九} 是^{一百}

は強盜一のあはれぬよじらぬ所けしとて

角部は強盜法師と号し其の傍に悪人のもの
うへに強盜をいふは初て家子悪人といふ
はたまた人より強盗とて賦おぼわりの町人
くわくはのきくとも月けりて町人といふ
と云ふ一くして賊徒といふ悪人の
善業の起ることをいふ心とてしつらうと強盜法
師といふは強盗の
その名はたかたきなりと春秋の
の稱呼といふは強盗といふは
是れはたかたきなりといふは
一衛の君の名はたかたきなりと云ふ

嚏云人通我此古し遺悟也

瑣珠録曰占噴嚏子曰所食印日大吉辰日婚合午日喜事酉日容至戌日嫉思亥日君子思餘皆云漢書藝文志嚏車鳴

雜占十六卷 原十日嚏音了討反

李濟公雜寶暇集今人每嚏必自祝所祈云業都終沈蒂

注願紅思也言打我也蓋他人思我我則嚏之也鄭又祿

古遺語每嚏云道我以為他人說我則嚏此正得其願

言者非祝願之願非語言之言今則自祝乃由誤解也

勺爾 容看隨下下并四云今人噴嚏不正者必嚏唾

祝云有人說我婦人正甚云嚏音帝鼻氣

日中記才一定其禁厭之法

此記高替ヲ急ニ云キ
事ヲ教タリ意ハ
事ノミナリ光親
事ノミナリ光親
事ノミナリ光親

わめれく。供所成り。さきく。食をれり。さし
食ら。し。た。み。術。市。以。以。卷。の。中。に。は。し。入。る。み。か
る。世。房。の。あ。ふ。に。は。み。術。と。さ。き。く。お。と。り。あ。い。か
ま。は。と。儀。の。あ。ふ。に。は。み。術。と。さ。き。く。お。と。り。あ。い。か
感。と。も。也。ほ。い。く。と。さ。き。く。お。と。り。あ。い。か

光教の 東億才五兼久三年七月十二日持家

卿 光教去月出衣 者号氏田五印信光頼下而而録名

使相逢于駿河回車返边依能可録 由於加古坂

鼻首 訖時年四十六云此張乃無双電臣又家門

貫首宏才優長也と座才牙殊成競戦忠頻

有達君於正慮一處法儀一越頗背敵慮一向維進
退惟谷一書下追討宣有一忠臣法誅而隨之渴飲云

湖原申狀數十通抄者仙洞。後日抄者。待或列後
梅人。拙冊。府。云々

又原先りが海辺の記し先教の事と

しつゝの。新市。と筑。と云々

おの。と云々

ん。と云々

は。と云々

ら。と云々

の。と云々

と。と云々

ら。と云々

ら。と云々

ら。と云々

ら。と云々

ら。と云々

ら。と云々

ら。と云々

ら。と云々

ら。と云々

ら。と云々

ら。と云々

ら。と云々

ら。と云々

ら。と云々

甲書 廿六 荻原 祥 云々

堀。と云々

け。と云々

れ。と云々

れ。と云々

れ。と云々

れ。と云々

れ。と云々

れ。と云々

れ。と云々

うららかに佛の法をうける心も。うららかにあきらまじく
とくひひとつらう人もく日々の。禪の心。うららかにあきらまじく
うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。
うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。
うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。
うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。
うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。
うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。
うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。
うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。
うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。うららかにあきらまじく。

今日不学而有某日勿謂今年不学而有某年日

月逝矣歳不我延嗚呼花矣是淮ハチ行アヒラガヤ

待老東方チ子チ道チ孤墳盡チ少年人

而如辛九ハチ 濶明時去來禪竟今是而唯此

所チ可チ也チ 若チ也チ行チ也チ

角チ乃チ行チ也チ 忘チ也チ也チ

八雲抄チ所チ行チ也チ 小庵チ也チ

角チ乃チ行チ也チ 一チ也チ

禪林チ也チ 十チ固チ

一チ廣チ大チ吾チ根チ故チ 二チ象チ飛チ隔チ威チ 三チ宿チ縁チ他チ生チ 故チ 四チ光チ明チ 梅チ叔チ 五チ聖チ家チ 護チ持チ 六チ夜チ示チ 他チ

生故七三業相應故八三昧夜得故九法身回戒或
心戒心海欽 体故十隨順本願歟

新收選九心海上人一念不午のりあゑ 夢れも
山とみぬに記す白あか何ともうにをきいふ
る

とんいふにふれいふかえをつるれ

聖人ハまじり治テ及ツカセラストモ君ナハアヤシキヤカカラストモキ
應長乃皆伴留回ある世鬼も成る成のそこのり

人鬼もよとして出づり昨日ハ西園寺におき
しじりて寝くありつらとハ

ワレありしとていふ人

がれ云人もさし上下とて鬼也事けみソク

りしとて此山あり安君院にきこみ行

四條よりいづれ人皆おゆ

所も鬼もてりありありし出川にきこみ

院に機發たわたり文もふ

まらまらり

人ゆかり

もじくまは

しと事

人のつらふ事

い

花園院乃年号し

井

あメ物之ケ
子ハ天ノラニ
しト云レシヤリ
ヲニクテト
モケテトニ

の字亦し將此字とてあし 伊勢物語のつくま
きりとも

院の浮板

一葉のちあの色とてあし 伊勢物語の目とて
てきりとも

くらとて

一本とて

りやいあふ事そ

八雲抄りしや久ハ

いともあふ事そ

凡言妖言のせよは向事古しこたまり

わいともあふ事そ 衣麻はうん人あふ麻

妖と云事あふ言信ふ麻ハ言妖と云麻

ふ妖信と云麻 諺言と云事あふ多 獣出急

至と云事あふし 麻陽の麻はよ

麻はよと云事あふし 五り麻はよ

高事とて漢書に五り志とて

漢の武帝の時 諺言とて

こと長守城中大計 諺言とて

のりん麻のりんあふ事

とあふ事あふし 伊勢物語

とて麻はよとて 洪水あふ

とて怪異其あふ人し 伊勢物語

やきとて麻はよとて 伊勢物語

とて麻はよとて 政あふ

とて麻はよとて 伊勢物語

大井井の伊勢物語 大井川

大井井の伊勢物語 大井川

五十二
レ匠去器三三
テ人ヲ御ハ

地味く雨のゆゆしく敷日といふあし出してを
うらむり又大方わぐらぶり多ればくくがゆい
と終よまらくくくくくくくくくくくくくく
千里人地りむれこころくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

龜山殿 龜山院岨乃龜山の麓に山莊を築
所隠居と一石に龜山殿と云

水ゆきやもくきんとし 西り方ふ茶行る

あつこよらぬくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく

岩くくくく外よせまゆりむれくく

水車 東坡集十二 無錫適中賦水車詩

翻々漣々御尾移攀々確々蛭骨蛇々蛙翠

浪走雲際刺水緑鍼抽禡牙匡日江浙何人

目水車乃龍骨車ト

水車此月八日入るゆけりくくくくくく

あつれあなまがくく造式とく國とく

くく王氏く農書くくくくくくくくくく



野槌上四紙

野槌上四紙
一、野槌上四紙
二、野槌上四紙
三、野槌上四紙
四、野槌上四紙
五、野槌上四紙
六、野槌上四紙
七、野槌上四紙
八、野槌上四紙
九、野槌上四紙
十、野槌上四紙

